

遠隔教育システムを用いた教育臨床に関する授業 「教育臨床心理学特論」の意義について

宮前義和, 松下文夫, 藤本光孝*
(附属教育実践総合センター) (*学校教育)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

Meaning of Class about Educational Clinical Psychology Using Distance Education System

Miyamae Yoshikazu, Matsushita Fumio, Fujimoto Mitsutaka

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

要旨 「教育職員免許法施行規則」第43条の3に基づく免許法認定公開講座における、遠隔教育システムを利用した授業「教育臨床心理学特論」について、通信メディア、講義方法、テキスト、本授業の良かった点と今後の課題等について検討した。その結果、別会場の授業担当者に質問が可能であったという遠隔教育システムの意義や、演習や実習を取り入れたことの意義が確認された。最後に、本授業の在り方について考察した。

キーワード 教育臨床, 現職教育, 免許法認定公開講座, 遠隔教育システム

はじめに

近年、いじめや不登校など教育臨床的諸問題に対する対応が急務とさされている。教育センター、児童相談所など教育関係諸機関が対応している他、スクールカウンセラーが学校に配置され、教員や保護者、子どもたちの相談に応じている。しかし、こうした教育臨床的諸問題にまず直面するのは学校教員である。学校教員には、こうした問題が生じないように予防することや、問題の早期発見、早期対応を行うことが求められている。また、教育臨床的諸問題について、児童精神科医や臨床心理士といった専門家と連携して対応したり、専門家の手を借りずに自ら応じなければならないことも多いと思われる。

こうしたことから、学校教員に対して、教育臨床に関する専門的な技能を身につけるための研修や、大学院教育が用意されている。例えば、福島大学では、教育実践総合センターにおいて、事例研究や社会的スキル訓練をはじめとしたグループカウンセリングの学習等、5つのクラスから構成された「教育実践」研修講座を用意している(青木真理・中野明德・生島浩・中田洋二郎・鈴木庸裕・水野晴夫・昼田源四郎, 2002)。他にも、新潟大学など多くの大学で、現職教員を対象とした研修を実施している(国立大学教育実践研究関連センター協議会, 2003)。

香川大学でも、教育臨床に関して、大学院(学校臨床心理専攻)を設置し、公開講演会、公開講座(「教育実践総合センター講座」)を実施している他、大学院の授業科目である「教育

臨床心理学特論」を、「教育職員免許法施行規則」第43条の3に基づく免許法認定公開講座として開設している。なお、免許法認定公開講座では、遠隔教育システムを用いており、このシステムを用いることで、学修の機会が得られやすくなるとともに、各地の学校教育に関する実状等について、その場で即時に、意見交換を行うといったことが可能となっている。

現職教員を対象とした教育臨床に関する研修の機会は数多くの大学が用意しているが、研修の意義や在り方についての実証的検討は十分ではないように思われる。そこで、本研究では、遠隔教育システムを用いた「教育臨床心理学特論」について意義を検討し、今後の在り方について考察することを目的とする。

方法

1. 対象者

「教育臨床心理学特論」を受講した79名（男性54名、女性25名）を対象とした。各会場の受講生は、表1にまとめた。受講生は、高等学校教員が最も多かった。また、教育委員会、養護学校、聾学校、幼稚園の教員も受講していた。

表1 「教育臨床心理学特論」受講生

	小学校	中学校	高等学校	その他 ¹⁾	計
香川大学会場	8	4	16	4	32
坂出会場	3	7	13	1	24
鳥取大学会場	2	6	0	0	8
高知大学会場	5	6	3	1	15
全体	18 (22.8%) ²⁾	23 (29.1%)	32 (40.5%)	6 (0.1%)	79
男	8 (44.4%) ³⁾	16 (70.0%)	27 (84.4%)	3 (50.0%)	54 (68.4%)
女	10 (55.6%)	7 (30.4%)	5 (15.6%)	3 (50.0%)	25 (31.6%)

1) 教育委員会、養護学校、聾学校、幼稚園

2) パーセンテージは、校種の割合を示している。

3) パーセンテージは、各校種の男女の割合を示している。

2. 手続き

「教育臨床心理学特論」は、授業内容の専門性を考慮して、香川大学教員2名、鳥取大学教員1名によって担当された。本授業は、平成13年7月21日（土）、22日（日）、28日（土）、29日（日）

のそれぞれ9時～17時にわたって（初日の開始時刻は10時）行われた。3名の教員のうち、1名は2日間、残りの2名は1日、授業を担当した。授業は、遠隔教育システムを用いて、「香川大学会場」、「香川大学・坂出会場」、「鳥取大学会場」、「高知大学会場」を結んで行われた。

・ 授業内容は、表2に示した。本授業は、教育臨床に関する基礎的な内容（例、教育相談や発達心理学の概要）から、専門的な内容（例、行動療法、ピアサポート、社会的スキル訓練について）までを含んだ構成となっていた。また、本授業では、不登校について事例研究を紹介し、受講生に事例の対応を考えてもらい、各会場を結んで討議を行う演習や、社会的スキル訓練を実際に体験する実習も取り入れられていた。授業を行うにあたっては、ビデオ等を用いて、授業内容を具体的に説明するように心がけた。

最終日に、本授業の意義に関する調査を行った。調査では、校種などの基本的属性、「通信メディア」、「講義方法」、「テキスト」に関する質問について回答を求め、さらに、授業の「良かった点」、「今後の要望」、免許法認定公開講座の開設授業の一つである「教育情報特論」と本授業について講義方法を比較して感じられた事柄、「本授業全般についての感想、意見」について自由に記述してもらった。なお、調査用紙は、資料として、本稿の最後に記載している。

表2 「教育臨床心理学特論」授業内容

内容
7月21日（土）教育相談
22日（日）発達心理学 カウンセリングの方法 行動療法(1)発達障害 行動療法(2)ストレス 行動療法(3)不登校
28日（土）アセスメント ピアサポートについて
29日（日）学校での心理臨床活動の意味 援助サービスの取り組み（認知カウンセリング） 援助サービスの取り組み（不登校から学ぶ） 社会的スキル訓練について 教育実践研究と心理臨床活動における倫理

結果

1. 分析対象者

有効な回答の得られた76名（男性48名，女性27名，不明1名，回答率96.2%）を分析の対象とした。表3に分析対象者を校種ごとにまとめた。全体としては，高等学校教員が4割をしめ，男性教員の割合が多かった。また，年齢及び教職経験年数について，表4にまとめた。全体では，31～40歳，41～50歳の年齢にほとんどの教員が該当し，教職経験年数は，平均すると17.0±6.2年となっていた。免許法認定公開講座は，小・中・高等学校のうちいずれかの1種免許状を取得し，3年以上の教職経験を有する者に対

表3 「教育臨床心理学特論」分析対象者

	小学校	中学校	高等学校	その他 ¹⁾	計
香川大学会場	7	4	13	2	26
坂出会場	3	7	13	1	24
鳥取大学会場	1	6	0	0	7
高知大学会場	5	6	3	0	14
全体	16 (22.5%) ²⁾	23 (32.4%)	29 (40.8%)	3 (0.04%)	71 ⁴⁾
男	8 (50.0%) ³⁾	15 (65.2%)	21 (72.4%)	1 (33.3%)	45 (64.3%)
女	8 (50.0%)	8 (34.8%)	7 (24.1%)	2 (66.6%)	25 (35.7%)

- 1) 教育委員会，養護学校，幼稚園
- 2) パーセンテージは，校種の割合を示している。
- 3) パーセンテージは，各校種の男女の割合を示している。なお，性別について1名の欠損値があった。
- 4) 校種について5名の欠損値があったため，合計が71名となっている。

表4 年齢と教職経験年数

	小学校	中学校	高等学校	その他 ¹⁾	全体
20～30歳 ²⁾	1	0	3	1	5 (6.6%)
31～40歳	7	11	13	0	31 (40.8%)
41～50歳	8	10	13	2	38 (50.0%)
51歳以上	0	2	0	0	2 (2.6%)
経験年数	18.3±5.3	18.4±6.4	15.1±6.2	15.7±8.5	17.0±6.2

- 1) 教育委員会，養護学校，幼稚園
- 2) 数字はその年齢に該当する人数を表している。

して，専修免許状取得のための学修の機会を提供するものだが，本授業では，教職経験の比較的豊かな教員の受講が多かったと言える。

2. 通信メディアについて

遠隔講義における講師の映像及び資料の映像が見やすかったかどうかについて，また，音声は聞き取りやすかったかについて，別会場の講師に向けて質問することができたのは有意義だったかについて，「そう思う（見やすかった，聞き取りやすかった，有意義だった）」～「そうは思わない（見やすかったとは思わない，聞き取りやすかったとは思わない，有意義だったとは思わない）」の5件法で回答を求めた。結果は，図1，図2，図3，図4にまとめた。

なお，香川大学会場から，本授業担当者の講義，演習，実習を発信したため，分析では香川大学会場受講生は除外した。また，坂出会場，鳥取大学会場，高知大学会場により，講師の映像の見やすさ等に違いがあるかどうかを1要因（会場）の分散分析を用いて検討したところ¹⁾，有意な違いは見られなかったため，3会場まとめた結果を示した。

講師の映像の見やすさについて（図1）は，3会場の受講生の半数以上は，どちらかと言えば見やすかったという回答を示していた。見やすいとは思わなかったという回答は比較的少数（30%）だった。

しかし，資料の映像は，どちらかと言えば見やすかったと回答した3会場の受講生は，15%であり，半数以上は資料の映像が見やすいとは思わなかったという回答を示していた（図2）。

音声の聞き取りやすさについて（図3）は，3会場の受講生の30%は聞き取りやすかったと回答し，ほぼ同じ割合の受講生が聞き取りやすいとは思わなかったと回答していた。つまり，音声の聞き取りやすさについては，結果がはっきりしていなかった。

別会場（香川大学会場）の講師（授業担当者）に質問ができたことの意義については，3会場の受講生のおよそ70%が認めていた（図4）。

3. 講義方法について

演習及び実習という講義方法が有意義だった

かどうかについて、「そう思う（有意義だった）」～「そうは思わない（有意義だったとは思わない）」の5件法で回答を求めた。結果は、図5、図6にまとめた。

演習及び実習という講義方法の意義について、受講生の70%以上が認めていた。さらに、対面授業と対面ではない授業（遠隔教育システムによる授業）を比較するために、t検定を用いて²⁾、香川大学会場の受講生とそれ以外の3会場（坂出会場、鳥取大学会場、高知大学会場）の受講生の回答を比較した。演習や実習を直接経験した香川会場の受講生は、遠隔教育システムを介して経験した3会場の受講生よりも、演習や実習の意義を有意に強く感じていた（演習の意義

香川会場：4.4±0.7，他会場：3.8±0.7，t(74)=3.63，p=0.0005；実習の意義 香川会場：4.2±0.8，他会場：3.7±0.9，t(74)=2.56，p=0.0126）。

演習や実習の意義は全受講生を通じて確認されたが、演習や実習を直接経験する方が、そうではない場合よりも、より強く意義を感じるということが明らかになった。

4. テキストについて

テキストの利用しやすさ及び分量が適切であったかどうかについて、「そう思う（利用しやすかった，分量は適切であった）」～「そうは思わない（利用しやすかったとは思わない，分量が適切であったとは思わない）」の5件法で回答を求めた。結果は、図7、図8にまとめた。

テキストについて、利用しやすいと回答した受講生は、約60%見られた。また、分量について適切であったと、約60%の受講生が回答した。一方、利用しやすいとは思わない，分量が適切

であったとは思わないと回答した受講生は、少数であった。テキストは、比較的妥当なものだったと思われる。

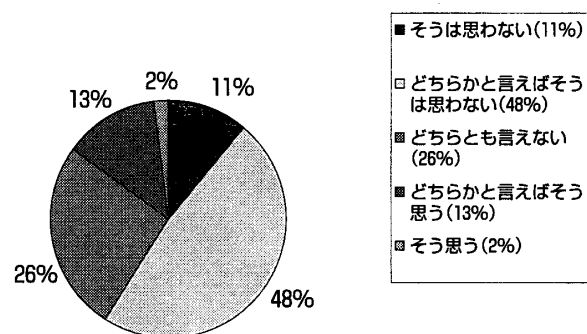


図2 「資料の映像は見やすかった」について

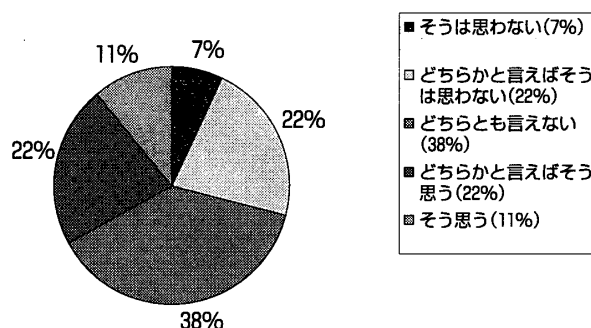


図3 「音声は聞き取りやすかった」について

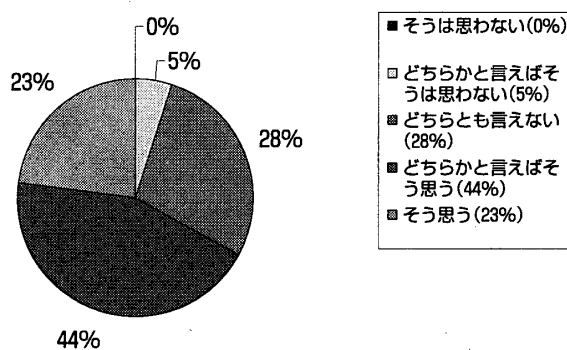


図4 「別会場の講師に質問ができたのは有意義であった」について

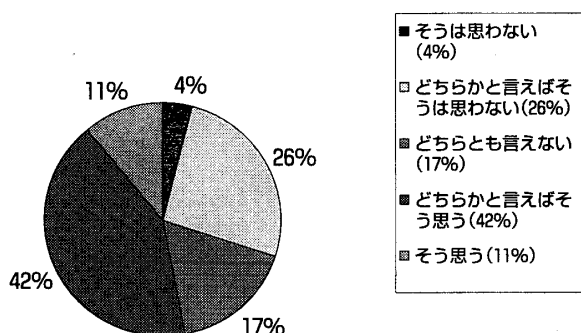


図1 「講師の映像は見やすかった」について

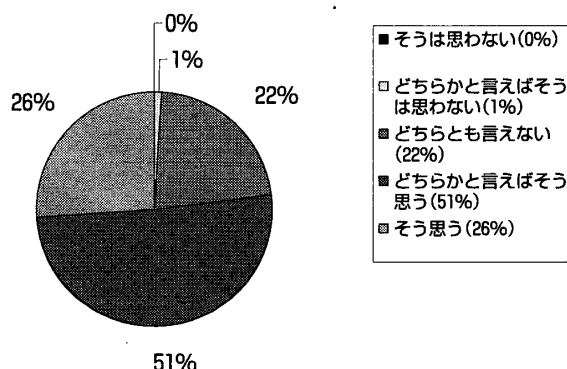


図5 「演習は有意義であった」について

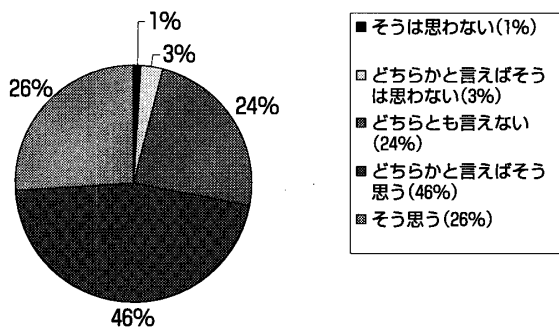


図6 「実習は有意義であった」について

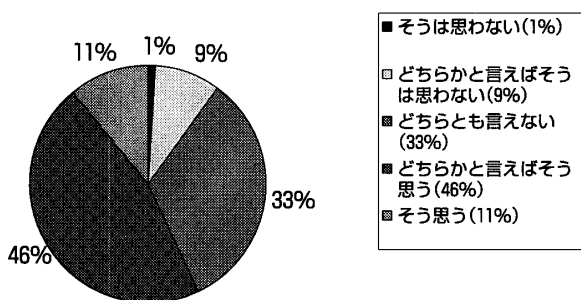


図7 「テキストは利用しやすかった」について

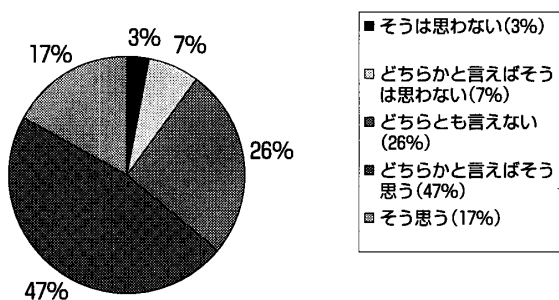


図8 「テキストの分量は適切であった」について

5. 本授業の良かった点及び今後の要望

本授業の良かった点及び今後の要望について、受講生が自由記述したものを分類、整理して、表5、表6にまとめた。

本授業の良かった点としては、教育臨床技法（カウンセリング、行動療法、社会的スキル訓練、ピアサポート）や教育臨床的諸問題（不登校等）について勉強になった、臨床心理学や発達心理学について理解が深まった、事例等を通じて授業内容を具体的に理解することができた、教育臨床について最新の知見を学ぶことができた、今後の方向性が見えた、といったことがあげられていた。

本授業における今後の要望としては、演習や実習をさらに取り入れてほしい、教育臨床的諸

問題について学習を深めたい、具体的な事例をとりあげてほしいといったことが示されていた。

6. 「教育情報特論」との講義方法の比較

免許法認定公開講座の開設授業の一つである「教育情報特論」は、「遠隔討論会」、「講義」（講師から受講生への一方向的な授業）、「CS放送」を組み合わせ実施され、「教育臨床心理学特論」では、「講義」、「演習」、「実習」が行われた。「教育情報特論」と本授業について講義方法を比較して感じられた事柄について、受講生が自由記述したものを分類、整理して、表7にまとめた。

両授業を比較して、討論、演習・実習がよかった、両授業のよいところを組み合わせるとよいと思うといったことが記されていた。少なくとも一部の受講生は、講師から受講生への一方向的な授業ではなく、討論、演習・実習といった相互作用のある講義方法をよかったと感じていたことがわかった。

考 察

「教育職員免許法施行規則」第43条の3に基づく免許法認定公開講座の中で開設している「教育臨床心理学特論」について、受講生76名に調査を実施し、その意義を検討した。

1. 通信メディアについて

講師の映像について、半数以上はどちらかと言えば見やすかったと回答し、30%は見やすいとは感じていなかった。資料の映像の見やすさについては、どちらかと言えば見やすかったと回答した受講生は少なく（15%）、半数以上が見やすいとは思っていなかった。また、音声の聞き取りやすさについては、聞き取りやすかったという受講生と聞き取りにくかったという受講生がほぼ同数（30%）見られた。

講師の映像、資料の映像、音声の聞き取りやすさといった要因は、授業を構成する基本的な要素であり、ある一定の水準は確保されていなければならないと思われる。そういう意味からは、講師の映像は比較的に見やすかったという結果が示されてはいるが、むしろ見やすいと

は感じていなかった受講生が30%いたという事実に着目し、さらに通信メディアの改善に努めるべきであろう。

また、音声の聞き取りやすさについて結果がはっきりしなかった理由として、例えば会場の違いが考えられたが、統計的検討を行った結果、有意な違いは認められなかった。音声の聞き取りやすさについて結果がはっきりしなかった理由は、今後の検討事項である。

資料の映像については、見にくかったという

回答が多かった。その理由として、通信メディアの要因もあり得るが、資料の提示方法の要因も考えられる。

例えば、第一著者は資料を提示する際に書画カメラを用いていた。フォントの大きさについては注意をしていたが、一枚の資料に記載する文字数、書画カメラを用いて提示する資料の量等について工夫が必要であったように思われる。今後は、例えば、書画カメラで提示する資料についてはすべて事前にレジュメとして配布して

表5 「教育臨床心理学特論」の良かった点

内容

1. 教育臨床技法について勉強できた
 - ・ピアポートの様子など、具体的な映像を見ることができたのはよかった。
 - ・カウンセリングについて、その心構えなどを確認できた。
 - ・行動療法という言葉しか知らなかったが、授業を通じて内容がわかってよかった。
 - ・海外のピアサポートの現状がよくわかった。
 - ・社会的スキル訓練の内容がよくわかった。
2. 教育臨床的諸問題について理解が深まった
 - ・発達障害について関心が深まった。
 - ・不登校の様々な捉え方がよくわかった。
 - ・不登校に関する話が勉強になった。
 - ・不登校を捉える視点について詳しく説明があり、勉強になった。
3. 臨床心理学、発達心理学について理解が深まった
 - ・教育臨床心理について専門的な内容を聞くことができて勉強になった。
 - ・臨床心理学の方法、倫理等を理解することができた。
 - ・発達心理学の復習ができたのはよかった。
 - ・臨床心理士について勉強になった。
4. 事例等を通じて、授業内容を具体的に理解することができた
 - ・事例を多く聞くことができ、大変参考になった。
 - ・不登校に対する対応方法が具体的に理解できた。
 - ・ピアサポート、いじめ、不登校について、その対応や予防法などが具体的に理解できた。
5. 教育臨床について最新の知見を学ぶことができた
 - ・教育臨床心理学という分野においても、日々新しい知見が生まれていると思った。
 - ・臨床心理学の最前線について教えていただきうれしかった。
6. 今後の方向性が見えた
 - ・今抱えている課題について、違ったアプローチの方法を学ぶことができた。
 - ・今の子どもたちについて何が必要なのか、何を教えていくべきなのかがよくわかった。
 - ・教育相談のあり方が少し見えてきた。
7. その他
 - ・知らなかったことを学ぶことができて、とても有意義だった。
 - ・様々な講師の先生の話聞くことができた。
 - ・カウンセリングの方法など、昨今の課題に対応した講話を聞くことができてよかった。
 - ・違った角度から物事を考えることができた。

表6 「教育臨床心理学特論」における今後の要望

内容

1. 演習, 実習をさらに取り入れてほしい
 - ・演習・実習を講義の重要な柱の一つとして, 参加体験型の学習形態をより取り入れてほしい。
 - ・実習を多く取りあげ, 特に行動療法, 社会的スキル訓練の具体的な実施方法を身につけたい。
 - ・討論の場を増やしてほしい。
2. 教育臨床的諸問題について学習を深めたい
 - ・スクールカウンセリングにおける不登校児童の事例研究があれば, 知りたかった。
 - ・学習についていけない児童の指導方法について知りたい。
 - ・学校が抱えている非行などの具体的な問題を取りあげてほしい。
 - ・不登校に関する事柄をさらに詳しく知りたい。
 - ・LDなどを取りあげてほしい。
 - ・いじめについて, 今後の方向性を示唆するような事柄を具体的に知りたい。
 - ・AD/HDについてさらに取りあげてほしい。
 - ・学級崩壊や不登校, 発達障害について, さらに知りたい。
3. 具体的な事例をとりあげてほしい
 - ・スクールカウンセラーの関わる事例が呈示されると, もっと考えやすい。
 - ・事例報告が多い方がよかった。
 - ・うまくいかなかった事例も取りあげて, カウンセリングの進め方を聞きたい。
 - ・授業での活用実践例などを取りあげてほしい。
4. その他
 - ・遠隔講義という方法は生かせないかもしれないが, 教科に関する講義をぜひ聞きたい。
 - ・教科教育についても取りあげてほしい(概論・方法など)。
 - ・会場の整備(机やイス)を行ってほしい。
 - ・もう少し講義内容の資料を呈示してもらいたい。

表7 「教育情報特論」と「教育臨床心理学特論」の講義方法の比較

内容

1. 討論, 演習・実習がよかった
 - ・CS放送を注視し続けるよりも, 演習・実習の方が疲れなかった。
 - ・講義の中に演習・実習があった方がメリハリがあり, また現場で役に立つ実践的な事柄を学ぶことができる。
 - ・CS放送より, 演習・実習の方がわかりやすかった。
 - ・演習・実習の方が, CS放送より, 直接講師と接触できてよい。
 - ・遠隔討論, 実習が多い方が実際のよい。
 - ・一長一短はあるが, 討論, 演習・実習などを取り入れると充実感が得られる。
 - ・遠隔討論は, 講義の内容の理解を図るのにとってもよかった。その後に講師のコメントがあり, とてもわかりやすかった。
 - ・演習・実習が取り入れられると, 集中しやすいように思う。
2. 両授業のよいところを組み合わせるとよいと思う
 - ・様々な先生方の話を聞くという意味では, 「遠隔討論会」, 「CS放送」があると幅が広がると思う。
 - ・「教育情報特論」と「教育臨床心理学特論」の講義方法を組み合わせるとよいと思った。
3. その他
 - ・香川会場では目の前で講義がなされ, 受講しやすかった。
 - ・CS放送は口調が単調で, 理解はしやすいが, 変化に乏しかった。
 - ・考えられる様々な講義方法を生かし, より充実した講座にしてほしい。

おく、一枚の資料に記載する文字数は可能な限り少なくするといった工夫が必要であろう。

別会場（香川会場）の講師（授業担当者）に質問ができたことについては、多くの受講生が意義を認めていた。遠隔教育システムの意義が確認されたと言える。

2. 講義方法について

講義方法については、受講生の多くが、演習や実習を意義深いものと感じていた。本授業における今後の要望や「教育情報特論」と本授業について講義方法を比較して感じられた事柄に関する記述を見ても、今後も演習や実習を授業の中に取り入れていくことが望ましいように思われる。

演習や実習の意義については、香川会場の受講生と他の会場の受講生の回答を比較した。その結果、演習や実習を直接経験した受講生の方が、遠隔教育システムを介して経験した受講生より、演習や実習の意義を強く感じていた。この結果から、少なくとも演習や実習について、対面授業でなければ感じることでできない要因が存在することが示唆される。例えば、講師の微妙な表情や息づかいなどは対面授業でなければ感じることはできないであろう。また、講師がいることから生じる適度な緊張感や安心感といった雰囲気も対面授業特有のもののように思われる。

対面授業でなければ経験することができない要因がどういったものなのかは、対面授業と遠隔教育システムを用いた授業を比較検討することにより、明らかにしていくことができると思われる。対面授業の特徴を明らかにすることは、日頃の教育実践はもとより、遠隔教育システムの充実にもつながるであろう。

3. テキストについて

テキストについては、利用しやすさ、分量ともに比較的妥当なものという回答結果が得られた。今後も同様のテキストを作成すれば良いように思われる。

4. 本授業の良かった点及び今後の要望

本授業の良かった点としては、教育臨床技法等について勉強になった、臨床心理学などの理

解が深まった、事例等を通じて授業内容を具体的に理解できた、教育臨床について最新の知見を学ぶことができた、今後の方向性が見えた、といったことがあげられていた。この質問項目に対する回答は自由記述であるため、受講生全体の傾向として解釈することはできないが、少なくとも一部の受講生において、本授業が有意義であったことが確認された。

本授業における今後の要望としては、演習や実習をさらに取り入れてほしい、教育臨床的諸問題について学習を深めたい、具体的な事例をとりあげてほしいといったことが示されていた。本授業では、講師は具体的な説明を心がけたが、少なくとも一部の受講生はさらに具体的な事例を希望していることがわかった。具体的な事例を希望しているのは、学校現場に即生かせるようにという思いからかもしれない。

遠隔教育システムを用いた「教育臨床心理学特論」は、平成14年度、そして今年度（平成15年度）も継続される。青木他（2002）が研修講座の工夫を年々重ねているように、我々もまた、確認された意義は継続し、課題と考えられる点については改善させ、学校現場により資するような授業を実施していきたいと考えている。

付記 本調査に御理解と御協力をいただきました、先生方に心よりお礼申し上げます。

なお、本研究は、平成12年度～平成13年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））、課題番号12680214）の助成を受けて行われ、本論文は、科学研究費補助金成果報告書の一部を加筆、修正したものです。

- 1) 「そう思う」～「そうは思わない」の5件法を、「そう思う」（5）と「どちらかと言うとそう思う」（4）、「どちらかと言えばそうは思わない」（2）と「そうは思わない」（1）を、それぞれ併合しても、度数が0もしくは2以下のセルが現れた。そこで、 χ^2 乗検定は用いずに、分散分析を行った。
- 2) 「そう思う」～「そうは思わない」の5件法を、「そう思う」（5）と「どちらかと言うと

そう思う」(4),「どちらかと言えはそうは思わない」(2)と「そうは思わない」(1)を,それぞれ併合しても,度数が0もしくは2以下のセルが現れた。そこで, χ^2 乗検定は用いずに,t検定を行った。

文献

国立大学教育実践研究関連センター協議会 2003 平成14年度国立大学教育実践研究関連センター協議会年報告.

青木真理・中野明德・生島浩・中田洋二郎・鈴木庸裕・水野晴夫・昼田源四郎 2002 教育実践総合センター「教育相談」研修講座について2001年度活動報告および受講生アンケート調査結果の検討 福島大学教育実践研究紀要, 43, 101-108.

(資料)

平成13年度 香川大学免許法認定公開講座 「教育臨床心理学特論」に関する調査

香川大学教育学部附属教育実践総合センター
宮前義和・松下文夫

この調査は、本講義の改善を目的に実施されるものです。回答は無記名とします。ご協力をお願いいたします。

1 以下の質問にお答えください。該当する数字に○をつけてください。

性別： ① 男 ② 女

年齢： ① 20～30歳 ② 31～40歳 ③ 41～50歳 ④ 51歳以上

職種： ① 小学校教員 ② 中学校教員 ③ 高校教員 ④ その他 ()

教職経験年数： () 年

2 6月に行われました、平成13年度香川大学免許法認定公開講座「教育情報特論」を受講しましたか。…………… ① 受講した ② 受講していない

3 以下の質問について、5～1の数字のいずれかに○をつけてください。

(基準)

そう思う	どちらかと言えば	どちらとも言えない	どちらかと言えば	そうは思わない
5	4	3	2	1

<通信メディアについて>

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| (1) テレビ会議による遠隔講義の講師の映像は見やすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (2) テレビ会議による遠隔講義の資料の見やすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (3) テレビ会議による遠隔講義の音声は聞き取りやすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (4) テレビ会議により、別会場の講師に向けて質問することができたのは有意義であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

<講義方法について>

- | | | | | | |
|------------------------|---|---|---|---|---|
| (5) 演習という講義方法は有意義であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (6) 実習という講義方法は有意義であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| <テキストについて> | | | | | |
| (7) 本講義のテキストは利用しやすかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (8) 本講義のテキストの分量は適切であった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

4 本講義の内容について良かった点、今後の要望を記してください。

良かった点 (例、いじめについて勉強になった)

今後の要望 (例、～をとりあげてほしい)

5 6月に、平成13年度香川大学免許法認定公開講座「教育情報特論」を受講された先生にお聞きします。それ以外の先生は、質問項目「6」にお進みください。

「教育情報特論」は、「遠隔討論会」、「講義」(講師から受講生への一方向的な授業)、「CS放送」を組み合わせて実施されました。今回の「教育臨床心理学特論」では、「講義」(講師から受講生への一方向的な授業)、「演習」、「実習」を組み合わせています。両者の講義方法を比較して感じて感じられた事柄について、どのようなことでもかまいませんので以下に記してください。

6 本講義全般について、ご感想、ご意見を記してください。

ご協力ありがとうございました。